

第1回湯沢・雄勝地域医療構想調整会議 議事要旨

- 1 日 時 令和7年7月24日（木） 午後4時から午後6時まで
- 2 場 所 オンライン会議
- 3 出席委員 委員13名中12名出席（代理出席者を含む。）

氏 名	役 職 等	氏 名	役 職 等
鎌 田 敦 志	町立羽後病院長	今 野 涉	全国健康保険協会秋田支部企画総務グループ長
小 松 田 敦	雄勝中央病院長	佐々木 勝 司	特別養護老人ホーム「ホームサン・グリーンゆざわ」施設長
武 部 浩 一	佐藤病院 事務長	阿 部 真 美	湯沢市稲川・皆瀬地域包括支援センター所長
秋 野 一 尚	湯沢市・雄勝郡歯科医師会副会長	高 橋 千 賀 子	湯沢市福祉保健部健康対策課長
海 野 哲 也	秋田県薬剤師会湯沢雄勝支部幹事	伊 藤 和 恵	羽後町健康福祉課長
小 野 洋 子	秋田県看護協会湯沢・雄勝地区	高 橋 弘 克	東成瀬村健康福祉課長

4 議事等

(1) 報告事項

- ①令和6年度病床機能報告と病床数適正化支援事業について
 - ②令和8年度地域医療介護総合確保基金（医療分）に係る事業提案の募集と「地域医療連携推進法人設立等支援事業」の事業実施について
 - ③へき地医療機関への看護師等の派遣について
 - ④かかりつけ医機能報告について
- 【事務局】
（資料により説明）
※委員からの意見なし

(2) 協議事項

- ①在宅医療等の推進状況と今後の方向性について

【事務局】

（資料により説明）

【町立羽後病院長】

- ・在宅療養支援病院（在支病）の基準が厳しい。当院でも連携型で実施することを検討したが、マンパワー不足、特に往診担当医の準備ができないために二の足を踏んでいる。
- ・訪問看護ステーションのナースも減っているため、訪問看護師をステーションに集約して地域全域をカバーする体制にし、必要に応じて病院に誘導する流れにした方が、在支病の目的を果たしやすくなるのではないかと考えている。
- ・また、訪問看護で事業所を閉めるところもでてきているので、そこの方に再任用を促しながら、母数の少ない看護師を確保していく必要もある。

【雄勝中央病院長】

・ 当院にも訪問看護ステーションがあるが、地方の現状では収支に見合わないことが問題。収支に合うよう人員配置を調整しており、現在は看護師 5 人を 4 人程度にして、現在の利用者をカバーする調整を行っている。

【佐藤病院事務長】

・ 精神科の立場では、在宅支援や訪問看護は人力的に厳しいのが現実。人口減少が進む中で、他病院のような形を進めていくのは現状では難しいと考えている。

【湯沢市・雄勝郡歯科医師会副会長】

・ 歯科訪問診療の需要は多いが、施設からの依頼がほぼ入れ歯に関係するものに偏っている。在宅の方はかかりつけ医へ行くことが多く、ケアマネジャーからの依頼は少ない。
・ 施設に対しては年 2 回、口腔ケアの講話と実技指導を行っている。

【県看護協会湯沢・雄勝地区】

・ 医療依存度が高いまま在宅へ戻る人が多く、自宅生活を継続できずに再入院するパターンが増えている。在宅を充実させるには訪問看護体制の充実が柱になるが、ステーションから看護師が減っている現状があり、今後充実させていくのが難しいと考える。
・ 看護協会のナースセンターでも色々力を貸してもらっているが、なかなか人が集まってこない。

【全国健康保険協会秋田支部企画総務グループ長】

・ 保険者として医療費等のデータ分析を進めているが、在宅医療に特化した分析はまだできていない。今後必要があれば進めていきたい。

【特別養護老人ホーム施設長】

・ 当施設は雄勝中央病院と協力医療機関の契約を結んでおり、入退院に関してはスムーズに行われている。
・ ACP について、市民向けに周知をしているようだが、なかなか進んでいない。身内のこととなると別事のように捉えられてしまうのか、意思表示をされている方はまだ少ないと感じており、結果として病院で終末期を過ごす方も一定いる。

【湯沢市稲川・皆瀬地域包括支援センター所長】

・ 医療・介護連携については、病院や調剤薬局が定期的に施設訪問をして当センターと情報交換しており、また、地域ケア会議等を通じて、顔の見える関係ができています。
・ 1 人暮らし高齢者の増加により、退院後の服薬調整や体調管理のための訪問が増えていると感じている。

【湯沢市健康対策課長】

- ・核家族化により在宅での介護力が低下している。身寄りのない方も増えており、その方々への体制も必要。
- ・医療依存度が高い方の支援の要望が多くなっているが、人材・資源不足で入院や施設入所を希望してもできない状況がある。
- ・また、地域で生活をされている精神疾患患者の訪問看護の需要も増えている。

【羽後町健康福祉課長】

- ・町ではレセプトデータを元に、高齢者へ一体的実施計画を立てて対応している。
- ・ハイリスク者には確実に訪問して医療につなげ、重複投薬等の相談は薬剤師に繋いでいる。
- ・健康状態不明者については、地域包括支援センターの協力で全員訪問し、検診等を促している。
- ・実施しているサロン等でのフレイル予防から医療の必要性が出た場合に社会資源に繋ぐ流れがようやくできてきた。

【東成瀬村健康福祉課長】

- ・地域ケア会議を核として、在宅医療を進めるためには各機関の情報連携が大事だと考えている。
- ・住民ニーズについて、1人暮らしや高齢者のみ世帯が増えており、家庭環境によっては在宅医療を望まないケースもあるのではと考えている。
- ・今週末に、村主催の健康づくりセミナーで在宅医療に触れる予定。

【県薬剤師会湯沢雄勝支部監事】

- ・訪問薬剤管理指導の問題として、1人薬剤師の薬局は店を空けられないため対応できない。
- ・また、このエリアは面積が広いため移動に時間がかかり、収益面でペイできないケースが多いと聞いている。患者の中には薬局が家に来るのを嫌がる方がいるほか、他職種から情報がもらえないケースもあり、そこが問題だと感じている。

【伊藤アドバイザー】

- ・在宅医療の推進には、多職種・多機関連携とICT・DXの活用が鍵になる。
- ・県医師会が委託を受けている「在宅医療推進センター」では、ACPの普及や啓発をしっかりとやっていきたいと思っており、また、ICTの活用については、ナラティブブック秋田をぜひ利用していただきたい。
- ・全体でも出たが、看護師不足が深刻。大学病院でさえ不足している状況であり、どう充実させていくかが県全体の課題と考える。
- ・また、施設にいる終末期の患者をすべて病院へ送ることになると病院が大変になるので、ACPの普及、つまり人生の最後をどうするかという話し合いをしっかりと進めていき

たいと考えている。

- ・羽後町のようにサロンから医療につなげる社会的処方各地を進めていただきたい。

②年末年始の救急医療提供体制について

【事務局】

(資料により説明)

【雄勝中央病院長】

- ・従来は医師会の先生方に病院に来て手伝ってもらっていたが、システムの違いなどもあり、なかなか手を挙げてくれる先生がいない状況。
- ・医師会の先生方が当番制で少しでもカバーしてくれればいいのだがなかなかいない。
- ・オンライン診療を導入するにしても機材が必要であり、行政からの補助があれば進むのではないかと考えている。
- ・方法として、相談窓口を設け、行政もサポートするといった体制があればよいと考えている。

【町立羽後病院長】

- ・湯沢・雄勝の人口比を考えると、雄勝中央病院への集中は大変だったと思う。
- ・湯沢の方には開業医の先生が多数いるはずなので、いかに協力していただくかにかかっている。
- ・午前中だけ、午後だけといった時間制のフレックスタイムで手伝ってもらうような形を、当院でも声をかけていこうと思っている。
- ・また、応援に来た先生が処方に困らないよう、あらかじめ約束処方のようなものを作っておくやり方もあると考える。

【羽後町健康福祉課長】

- ・町として年末年始に発熱相談を受けるような事業は今までなかったが、行政の PR で医療にうまく繋がる先行事例があれば勉強し、取り組みを進めたい。

【湯沢市健康対策課長】

- ・湯沢市でも年末年始の病院へのかかり方の相談対応はしていない。県で#7119 が始まった場合は、その周知についても今後、検討していきたい。

③病床削減に係る単独病床再編計画について

【事務局】

(資料により説明)

【雄勝中央病院長】

- ・患者数の減少と医療従事者の不足に対応するため、また 24 時間 365 日の救急受入れ

機能を維持するために、適正な病床数にすると判断した。

- ・稼働している病棟の稼働率は90%以上を保っており、満床に近くなれば調整しながら対応している状況。

- ・今後の課題として、自宅に戻れない患者が施設へ行く際の調整をスムーズにしたい。具体的には、各施設のベッド状況や受け入れ可能な介護度を互いにリアルタイムで共有できるソフトやシステムがあれば、時間をかけずに紹介できると考えている。

【町立羽後病院長】

- ・異議なし。

- ・当院では施設探しをソーシャルワーカーに相談しており、彼らが各地区の空き状況を把握してくれているので非常に助かっている。